

新聞を身近なものとして感じ、新聞との関わりを日常的にするための取り組み

指定校 1 年次 佐久市立臼田小学校 甘利 哲夫

I. 本校の新聞活用（N I E）の現状

本校は、本年度NIE研究指定校となり、新聞を活用しての教育活動に取り組み始めた。抽出学級ではなく全校職員が関わりながら実践を進めていくことになった。児童の中には新聞を購読していない家庭も多い。また、新聞は大人の読み物という意識から関心を持たない児童も多い。このような実態から、まずは「児童が新聞を身近に感じることで親しみを持てるようにするための取り組み」を中心に進めることとした。

II. 実践のねらい

1. 読み取った内容や体験した事実から自分に必要な情報を選び、考えをまとめる力の育成
2. 相手意識を持ち、伝えたいことを明確にして分かりやすい伝え方かどうかを吟味する力の育成
3. グループや学級で自分なりの見方や考え方を進んで伝えたり相手の考えを把握したりする態度の育成
4. 新聞に親しみをもち、主体的に読むこと、表現することを楽しむ姿。

III. N I E 実践の概要

1. 新聞を身近に感じるための環境作り

(1)新聞コーナーの設置

一学期の6月から数社（信濃毎日新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞）の新聞を届けていただけるようになった。当初は、空き教室を利用して新聞を見ることが出来る場所を作ったが、子どもたちも職員もその部屋に行って新聞を見ることがほとんどなかった。そこで、多くの児童が通る児童昇降口の一角に「新聞コーナー」を設置することにした。全職員で協力してコーナーのためのスペースを新たに作り出し、毎日の新聞の設置を職員が当番で行うことにした。そして、その日の新聞はすぐに手に取って見られるよう机の上に置き、前日までの新聞はストッカーの棚に置き児童が自由に見られるようにした。



そして、その日の新聞はすぐに手に取って見られるよう机の上に置き、前日までの新聞はストッカーの棚に置き児童が自由に見られるようにした。

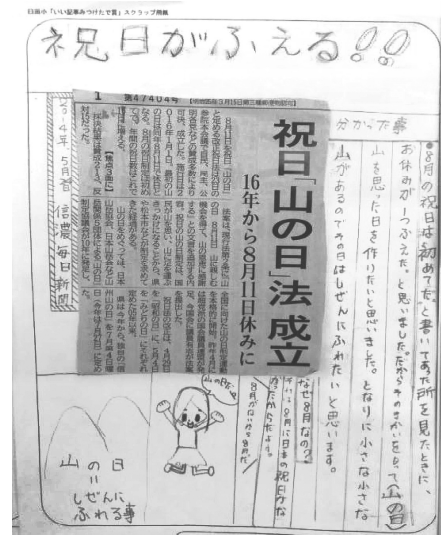
じゅうたん敷きでソファのあるこのコーナーでは、登校後の朝の時間や昼休みの清掃までの間の時間に子どもたちが新聞を手にして、興味のある写真や見出しや記事について話をしている姿がよく見られるようになった。

子どもにとっても職員にとっても新聞に触れる機会が増え、身近に感じられるようになってきた。

(2) スクラップに挑戦

6月、児童一人ひとりがより主体的に新聞に関わってほしいと願い、全校で「新聞スクラップ」に取り組んだ。スクラップは、用紙1枚に1つの記事を貼り、記事の回りに自分の感じたことをもとにタイトルと感想を書くもので本校オリジナルの様式である。児童がスクラップを始める前にまずは職員自身がスクラップ作りに取り組んでみた。実際に行ってみると、写真や見出しのおもしろさを感じたり、内容に関わりのある複数の記事があることに気づいたりした。また、読むうちにわからないことを調べてみたくなる記事もあり、スクラップ作りをしていくのにも目の付け所が様々にあることに気づいた。その後、児童に投げかけた「新聞スクラップ作り」では、中学年を中心に夢中になって取り組む児童が多く、毎日のようにスクラップを作ることを楽しむ姿が見られた。

この「新聞スクラップ作り」は、第1弾の「いい記事みつけたで賞」から夏休みの課題とした第2弾の「夏の記事見つけたで賞」、第3弾「がんばっている人見つけたで賞」へと継続し、新聞への興味や関心を高め、日常化することを図っている。



2. 授業実践

(1) 信濃毎日新聞 NIE推進協議会の方による出前授業

4学年は社会科見学について、6学年は修学旅行についての新聞作りを行った。見学や旅行の前に信濃毎日新聞の方に出前授業に来ていただき、新聞作りについて事前に学ぶ機会を設けた。この事前学習のおかげで、児童は新聞を作る際の視点を持って見学や旅行に行くことができた。また、実際に新聞を作っていく段階にも出前授業に来ていただき具体的な新聞記事の書き方を学習した。何のための新聞か（目的意識）、誰に読んでもらう新聞か（相手意識）をはっきりさせて書いていくことの大切さや事実によって伝えたいことを端的に伝える表現を学ぶことができた。

(2) 国語 5学年の実践から

① 単元名 「新聞を読もう」(全4時間扱い第2時)

② 主眼 新聞に触れる機会が少なく記事を読み慣れない子どもたちが、記事を基に作ったクイズに答えたり新聞からクイズを作り友達と交流したりすることを通して、新聞には5W1Hなどの多くの情報が書かれていることがわかり、一つの記事を詳しく読むことができる。

③ 授業の様子から

ア) 導入

○記事を基に教師が例示で作った2題のクイズの答えを見つけるために、記事の内容をよく読むとする姿が見られた。

○クイズの答えに関わる部分が新聞記事の中の見出しや写真の説明、本文中に様々な表現で書かれていることに子どもたちは気づいた。表現の違ういくつかの答えを新聞記事から見つけるこ

ともできた。それらの言葉がどのように関連しているのかを一緒に考え、児童は納得することができた。

イ) 展開

○記事を読み児童が興味を持ってクイズ作りに取り組めるよう、スポーツ、自然、食、地域に関わる記事を選んで配布した。クイズを作るためには、よく読まなければならないので必然的に文を読むことにつながった。

○新聞記事をよく読み友達が作ったクイズに答えることを楽しむ姿が見られた。

ウ) 終末

○記事からクイズを作ったりクイズに答えたりして感じたことをまとめとして記入したが、新聞を難しいものではなく楽しいものと感じた児童が多くいた。親しみを感じたようだった。

「このようにして新聞を読むとあきもしないし楽しいと思った。」

「新聞をよく見て読んで、たくさんの問題が書けてよかった。すごくクイズを作って出すのがとてもおもしろい。」

④成果と課題

○国語学習として、新聞記事の中の5W1Hに焦点化し、その内容に関わるクイズ作りを行うことで新聞記事の文章の特徴をはっきりとつかませる展開でもよかった。

○読み慣れない新聞を繰り返し読み、楽しんでクイズ作りを行っていた様子から、新聞への興味・関心が高まったことが感じられた。よく読むことは理解の深まり、地域を知ること、言葉を知ることへとつながる。興味を持つ段階から、次へ発展させるにはどのような取り組みがあるかが課題である。

(3)国語 4 学年の実践から

①単元名 「新聞記者になろう」(4 学年 国語)

②展開の概要 (全13 時間中第10 時)

第1 次

ア) 新聞記事からスクラップを作る。

イ) 新聞には何が書かれているか話し合い、日記にはなく、新聞だけにあるものを考える。

ウ) 新聞記者の方から話を聞き、新聞記事の特徴や書き方、取材の仕方について学ぶ。

第2 次

エ) 社会科の学習で疑問に思ったことやもっと知りたいことをまとめ、取材できる準備をする。

〔社会科見学〕

オ) 社会科見学のまとめをする。

第3 次

カ) 新聞記事に入れる材料を選び、構成カードを書く。選んだ材料が適切か友達と話し合う。構成カードを元に記事の下書きを書く。

キ) 見出しを考えてできた下書きを読み返し、よりよい表現にしたり、間違いを直したりする。

ク) 清書する。

第4次

ケ) 参観日にお家の人に読んでもらい感想を寄せてもらう。

③本時案

ア) 主眼 トップ記事の下書きを書き上げた子どもたちが、第二、第三記事を読み手に分かりやすい記事に練り上げる場面で、「構成カード」を用いたり友達のアドバイスを参考にしたりすることを通して、伝えたいことがわかる記事を書くことができる。

イ) 本時の位置 (全13時間中第10時)

前時 構成カードを元にトップ記事を下書きした。

次時 下書きを読み、表現や誤字脱字の見直しをする。

ウ) 指導上の留意点

- ・取材メモや見学場所でいただいた資料を手元に置き、記事に入れる材料を用意しておく。
- ・「見学場所に行ったことのない人 (相手意識)」「見学の感動を伝える (目的意識)」を常に持たせる。

エ) 展開

○見学場所に行ったことのない人に社会見学の感動が伝わる新聞記事を書くことを確認する。

学習問題：伝えたいことがわかる記事にしよう。

○前時を振り返って、トップ記事を書いて困ったことを出し合う。

学習課題：大事なことから書いたり、5W1Hに気をつけて書いたり、友達と読み合ったりして、伝えたいことがわかる記事を書こう。

○構成カードを用いたり友達のアドバイスを参考にしたりして二番目、三番目の記事を書く。

○自分の原稿を見直す。

④成果と課題

ア) 成果

- ・新聞は字数が限られていることを理解し、文末を常体で統一して書くことができるようになった。
- ・新聞の「事実を書く」という特徴を知り、思いこみや主観的な文章ではなく、客観的事実を並べて文章にすることで、事実と感想の違いを意識し、事実で思いを伝える表現を学ぶことができた。
- ・事実を書くために、取材メモ活用の仕方を学んだ。大切な箇所だけ抜き出すことや必要な事柄を探し出すなどの経験ができた。
- ・書きたいことが整理され、話の中心がずれてしまう文章を書く児童がいなかった。

イ) 課題

- ・大切なことだけを聞き取ってメモする力を高めたい。情報を活用することにつなげていきたい。
- ・それまで書いていたことを一括りにして「すごかった」「びっくりした」「知らなかった」など安易にまとめてしまう表現を脱し、具体的で深まりのある感想を書けるようにしていきたい。

- ・推敲する力を高めたい。相手意識に立って何度も読み返し、相手の理解を助けるために書き足したり削ったり、書き直したりできる力を高めていきたい。

IV. 実践のまとめと今後の取り組みへの課題

今年度は、N I Eの実践に当たり、まずは児童が新聞を身近に感じ親しみを持てるようにしたいという願いから、新聞コーナーを設置して環境を整えたり全校でスクラップに取り組み関心を高めたりする取り組みから始めた。これまでほとんど新聞を目にすることがなかった児童もいたが、新聞に触れる機会が増え少しずつ新聞との距離が縮まってきたようである。普段から自主的に新聞のスクラップを行っているクラスもあるが、全校でテーマを決めてスクラップを行い、全員のものと同じスペースに張り出したことで、同じ記事でも他学年の児童の取り上げ方やまとめ方が違うことに関心を持ち、もっと良いスクラップを作ろうという意識を高めることができた。また、様々なニュースが取り上げられるため、より珍しい記事を見つけてみようとする子どももあり、全員で取り組むメリットは多い。どの子も新聞に触れる機会が持てる良さも感じられた。今後も継続して取り組みたい。

今年度は全クラスで新聞を活用した授業を行う期間を決め、集中的に実践授業に取り組んだ。ねらいに合わせ新聞の活用を考えていった結果、本年度はどのクラスも国語での実践となった。来年度も、集中的に授業実践を行う期間を設け、全クラスでN I Eに取り組めるようにしていきたい。更に、国語だけでなく各教科で新聞を活用することにより効果的な単元はあるかという目で年間予定を見直し、実施できる単元を事前に把握し記事を準備していくことが大切だと感じる。年間を通して計画的に新聞を利用していくことができるようにしていきたい。